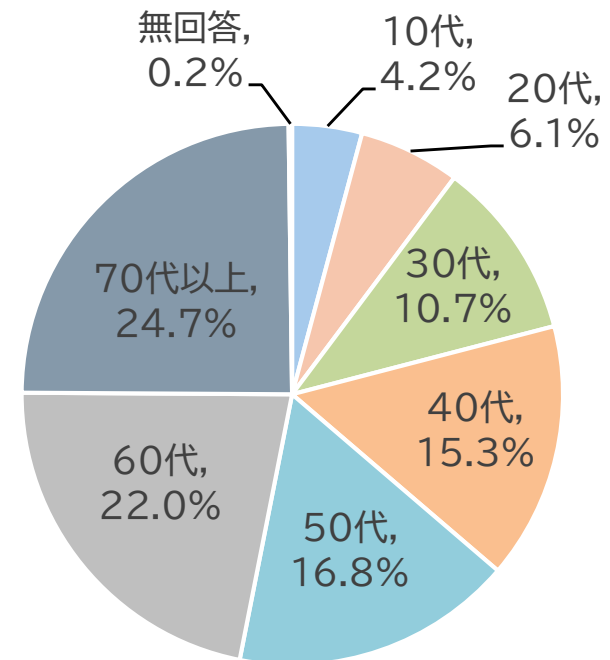
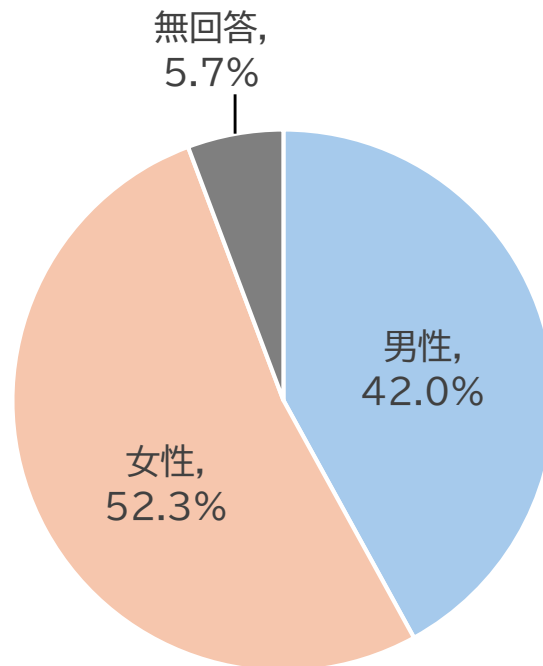


鳥取市民アンケート調査報告書(概要版)

調査概要

- ◆調査の目的:本アンケート調査は、市民の日常生活におけるくらしの満足度等を把握し、今後の事業実施及び次期総合計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施。
- ◆対象者:15歳以上の鳥取市民
- ◆調査手法:住民基本台帳から上記対象者を無作為抽出し、郵送調査(回答は郵送による返信もしくはWEBフォームからの回答)
- ◆調査票送付者 4,000人のうち回答者 1,800人(回答率45.0%)
- ◆調査期間:令和6年7月10日から8月12日

調査回答者属性



主な調査結果のポイント

1.

住みやすさ(暮らし)への満足度の上位項目は大きく変化していないが、雇用等社会の変化から満足度に変化がみられるものがある。

2.

市民の誇りは、恵まれた自然環境や安心して暮らせる住環境。定住意向も高いが、特に若者層の一部は住みにくさを感じている様子。

3.

現子育て世代は、子育て施策に一定の評価をしているが、“子育て”を一括りにせず、細かく施策を分析することが必要。

4.

コロナ禍を経て、地域社会との関わりが薄くなっているが、まちのために何か行動したい人も半数程度いる。

5.

デジタルサービスは浸透してきている。年代に応じたメディア利用や動画等を活用した説明、アプリ共通化等の必要も。

6.

地域活動に対する重要度が下がってきている。重点改善分野など施策に継続して取り組んでいく必要がある。

1.

住みやすさ(暮らし)への満足度の上位項目は大きく変化していないが、雇用等社会の変化から満足度に変化がみられるものがある。

(1.-1)暮らしの満足度の上位項目は大きく変わっていない。

1位 山、川、海などの自然環境
(R1年1位 H26年1位)

2位 公共下水などの生活雑排水処理
(R1年3位 H26年2位)

3位 騒音、悪臭などの公害発生防止
(R1年2位 H26年 5位)

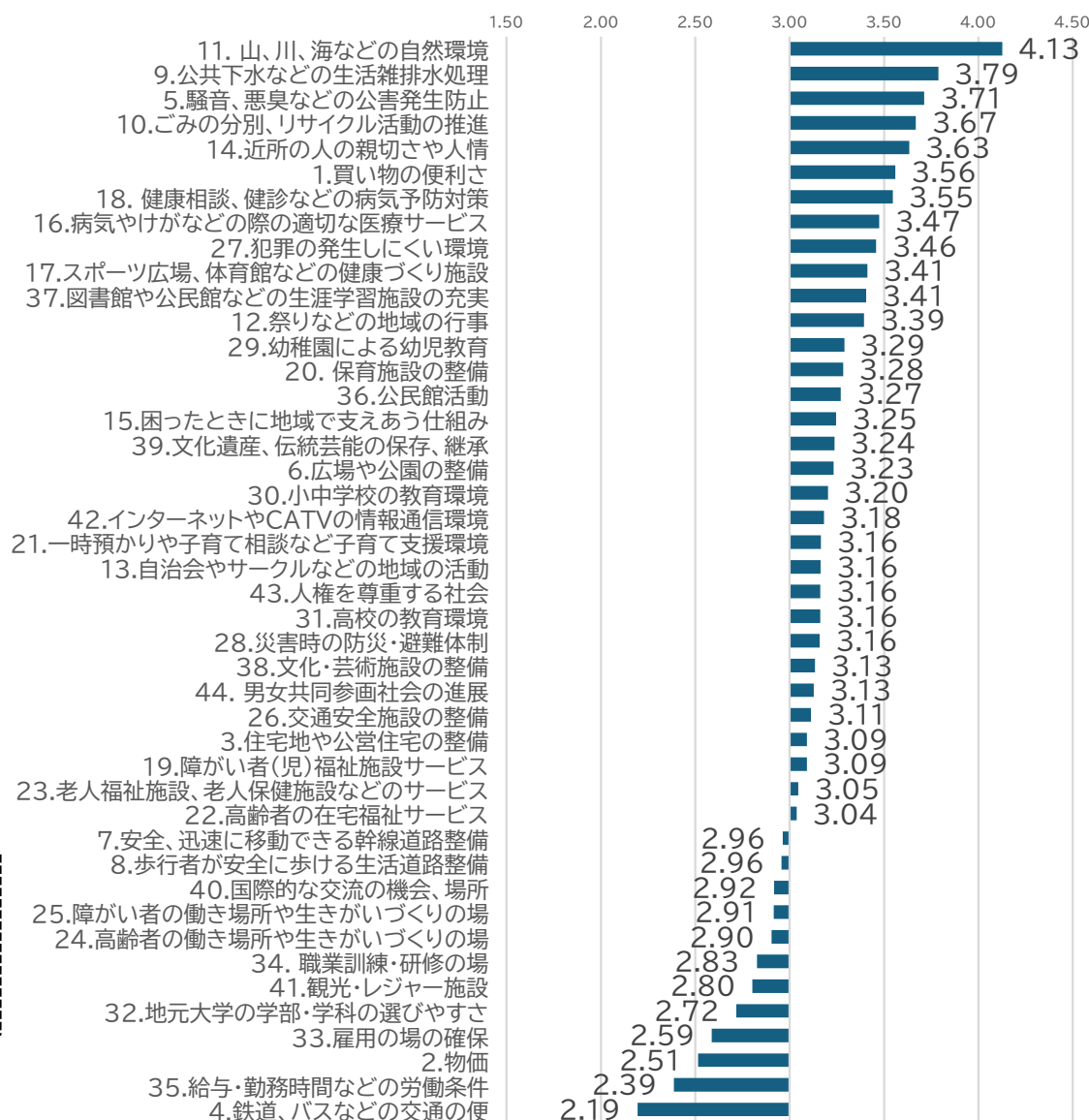
4位 ごみの分別、リサイクル活動の推進
(R1年5位 H26年 4位)

5位 近所の人の親切さや人情
(R1年4位 H26年 3位)

数値について:

選択肢のうち、「満足」を5点「やや満足」を4点「やや不満」を2点「不満」を1点「わからない」を3点にしてそれぞれの回答数を全体回答数で割ったもので得点化している

問:住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか



問:住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか(前回・前々回比較)

(1.-2)10年のスパンでみると、プラス・マイナスのポイントの差がみられるものがある。

▶ 10年前と比べプラス幅が大きいもの

雇用の場の確保	+0.45ポイント
職業訓練・研修の場	+0.29ポイント
子育て支援環境	+0.22ポイント
高齢者の働き場所や生きがい	+0.20ポイント
安全に歩ける生活環境整備	+0.18ポイント
男女共同参画社会の推進	+0.17ポイント
災害時の防災・避難体制	+0.16ポイント

▶ 10年前と比べマイナスとなったもの

自治会やサークルなど地域の活動	-0.14ポイント
鉄道、バスなどの交通の便	-0.11ポイント
公民館活動	-0.10ポイント
祭りなどの地域の行事	-0.05ポイント
幹線道路整備	-0.04ポイント
物価	-0.04ポイント
犯罪の発生しにくい環境	-0.03ポイント
生涯学習施設の充実	-0.02ポイント
近所の人の親切さや人情	-0.01ポイント

	R6	R1	H26	10年前比	5年前比
11. 山、川、海などの自然環境	4.13	4.05	4.03	0.10	0.08
9. 公共下水などの生活雑排水処理	3.79	3.78	3.74	0.05	0.01
5. 騒音、悪臭などの公害発生防止	3.71	3.83	3.62	0.09	-0.12
10. ごみの分別、リサイクル活動の推進	3.67	3.58	3.64	0.03	0.09
14. 近所の人の親切さや人情	3.63	3.68	3.64	-0.01	-0.05
1. 買い物の便利さ	3.56	3.47	3.49	0.07	0.09
18. 健康相談、健診などの病気予防対策	3.55	3.49	3.46	0.09	0.06
16. 病気やけがなどの際の適切な医療サービス	3.47	3.44	3.36	0.11	0.03
27. 犯罪の発生しにくい環境	3.46	3.58	3.49	-0.03	-0.12
17. スポーツ広場、体育館などの健康づくり施設	3.41	3.23	3.24	0.17	0.18
37. 図書館や公民館などの生涯学習施設の充実	3.41	3.34	3.43	-0.02	0.07
12. 祭りなどの地域の行事	3.39	3.44	3.44	-0.05	-0.05
29. 幼稚園による幼児教育	3.29	3.27	3.19	0.10	0.02
20. 保育施設の整備	3.28	3.25	3.15	0.13	0.03
36. 公民館活動	3.27	3.30	3.37	-0.10	-0.03
15. 困ったときに地域で支えあう仕組み	3.25	3.26	3.24	0.01	-0.01
39. 文化遺産、伝統芸能の保存、継承	3.24	3.14	3.15	0.09	0.10
6. 広場や公園の整備	3.23	3.20	3.22	0.01	0.03
30. 小中学校の教育環境	3.20	3.20	3.14	0.06	0.00
42. インターネットやCATVの情報通信環境	3.18	3.12	3.08	0.10	0.06
21. 一時預かりや子育て相談など子育て支援環境	3.16	3.09	2.94	0.22	0.07
13. 自治会やサークルなどの地域の活動	3.16	3.20	3.30	-0.14	-0.04
43. 人権を尊重する社会	3.16	3.16	3.05	0.11	0.00
31. 高校の教育環境	3.16	3.16	3.04	0.12	0.00
28. 災害時の防災・避難体制	3.16	3.03	3.00	0.16	0.13
38. 文化・芸術施設の整備	3.13	2.98	3.09	0.04	0.15
44. 男女共同参画社会の進展	3.13	3.07	2.96	0.17	0.06
26. 交通安全施設の整備	3.11	3.06	3.08	0.03	0.05
3. 住宅地や公営住宅の整備	3.09	3.14	3.03	0.06	-0.05
19. 障がい者(児)福祉施設サービス	3.09	3.12	3.05	0.04	-0.03
23. 老人福祉施設、老人保健施設などのサービス	3.05	3.01	2.96	0.09	0.04
22. 高齢者の在宅福祉サービス	3.04	3.03	2.91	0.13	0.01
7. 安全、迅速に移動できる幹線道路整備	2.96	3.15	3.00	-0.04	-0.19
8. 歩行者が安全に歩ける生活道路整備	2.96	2.86	2.78	0.18	0.10
40. 国際的な交流の機会、場所	2.92	2.91	2.87	0.05	0.01
25. 障がい者の働き場所や生きがいづくりの場	2.91	-	-	-	-
24. 高齢者の働き場所や生きがいづくりの場	2.90	2.87	2.70	0.20	0.03
34. 職業訓練・研修の場	2.83	2.70	2.54	0.29	0.13
41. 観光・レジャー施設	2.80	2.65	2.62	0.18	0.15
32. 地元大学の学部・学科の選びやすさ	2.72	2.67	2.70	0.02	0.05
33. 雇用の場の確保	2.59	2.38	2.14	0.45	0.21
2. 物価	2.51	3.11	2.55	-0.04	-0.60
35. 給与・勤務時間などの労働条件	2.39	2.23	2.20	0.19	0.16
4. 鉄道、バスなどの交通の便	2.19	2.16	2.30	-0.11	0.03

問:住まいの地域の住みやすさについて、どの程度満足されていますか(前々回比較／年齢別分析)

(1.－3)雇用の確保については、近年の人手不足の影響も考えられる。

近年の働き手不足の影響のほか、特に高齢者(現70代以上世代)のポイントが上がっていることが、全体を押し上げている要因と考えられる。

(1.－4)下がっている項目は、特に回答者数の多い現70代以上世代の影響があると考えられる。

この世代の下落が全体を押し下げている要因と考えられる。

	雇用の場の確保について		職業訓練・研修の場について		給与・勤務時間などの労働条件について	
	H26	R6	H26	R6	H26	R6
全体	2.14	2.59	2.54	2.83	2.20	2.39
10代	2.72	3.15	3.01	3.33	2.71	2.88
20代	2.07	2.92	2.67	3.13	1.90	2.41
30代	2.05	2.50	2.56	2.70	2.06	2.19
40代	1.98	2.46	2.40	2.79	1.93	2.12
50代	1.88	2.45	2.32	2.74	1.99	2.28
60代	2.18	2.47	2.56	2.70	2.32	2.32
70代以上	2.45	2.74	2.71	2.92	2.62	2.70

	自治会やサークルなど地域の活動		鉄道、バスなどの交通の便		公民館活動	
	H26	R6	H26	R6	H26	R6
全体	3.30	3.16	2.30	2.19	3.37	3.27
10代	3.66	3.54	2.12	2.31	3.47	3.63
20代	3.21	3.36	1.80	1.98	3.22	3.27
30代	3.28	3.04	2.12	2.15	3.23	3.14
40代	3.15	3.01	2.05	2.02	3.37	3.23
50代	3.11	3.24	2.03	2.00	3.21	3.29
60代	3.42	3.09	2.55	2.24	3.41	3.28
70代以上	3.43	3.22	2.77	2.45	3.60	3.28

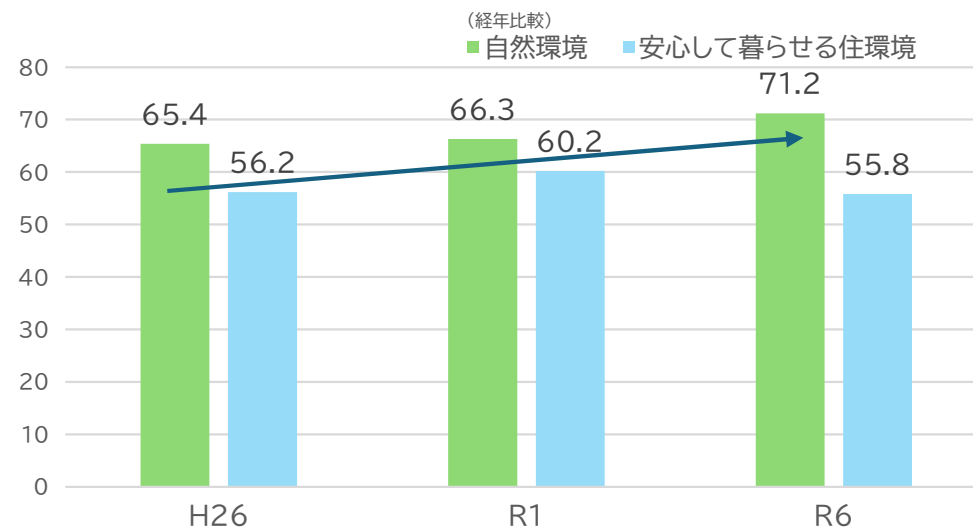
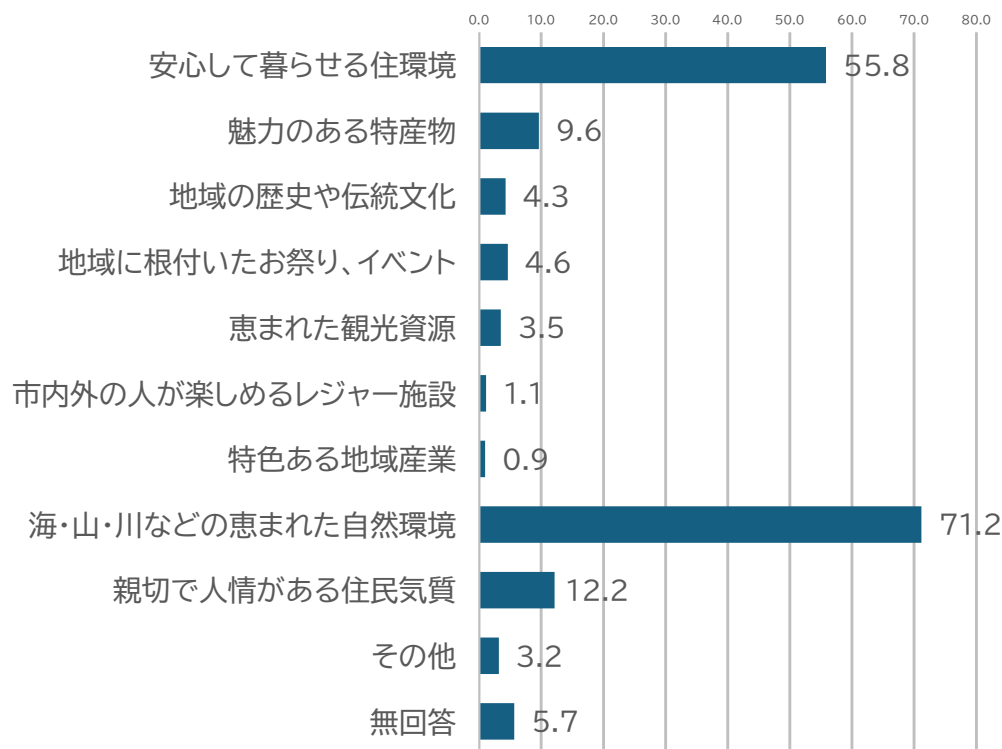
2.

市民の誇りは、恵まれた自然環境や安心して暮らせる住環境。定住意向も高いが、特に若者層の一部は住みにくさを感じている様子。

問:あなたが鳥取市について誇りに思うことは何ですか。(2つまで)の中の上位項目

(2-1)自然環境・住環境が上位2つ。

海・山・川などの恵まれた自然環境については、一貫して上昇傾向。全体は71.2%に対して、子育て中の人は高め。安心して暮らせる住環境については、5年前にいったん上昇したが、今回はほぼ10年前と同じ値になった。全体55.8%に対して、30代・40代が低めである。



年齢別・子育て年齢別	海・山・川などの恵まれた自然環境	安心して暮らせる住環境
全体	71.2	55.8
10代	56.0	60.0
20代	64.2	56.0
30代	75.6	50.8
40代	69.6	50.4
50代	70.6	56.8
60代	75.3	61.1
70代以上	71.2	55.6
小学生以上を子育てしている	76.9	57.3
就学前児童を子育てしている	77.9	53.4

問:鳥取市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感ずますか。

(2.-2)全体では10年間で大きく変わっていないが、居住年数別や世代によって「感じていない」と回答する人の割合が高くなる。

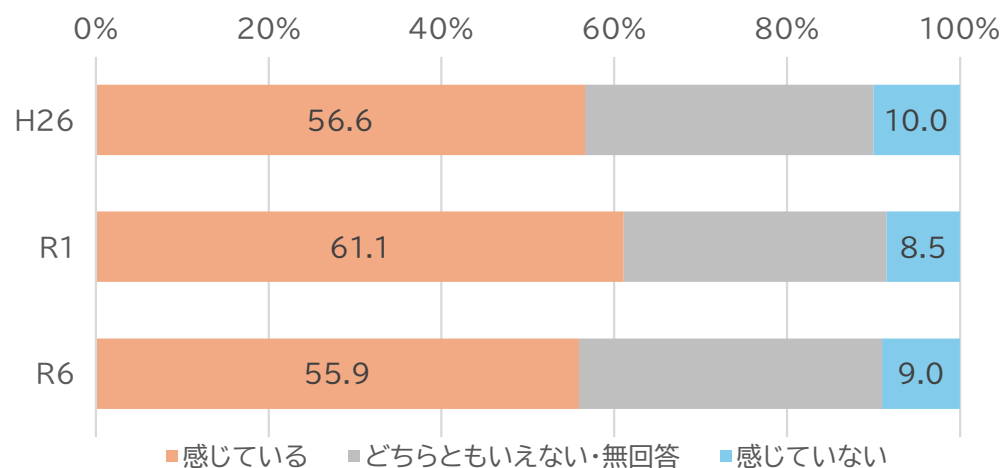
「感じている」に注目するとH26:56.6%⇒R1:61.5%⇒R6:55.9%と、ほぼ10年前に戻っている。

「感じていない」に注目すると、H26:10.0%⇒ R1: 8.5% ⇒ R6: 9.0%と大きな差はない。

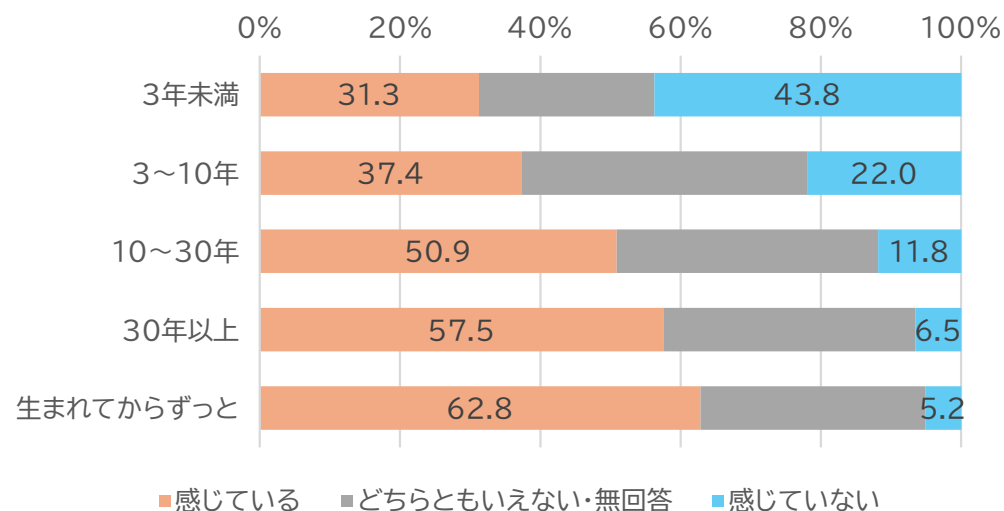
居住年数別では、居住年数が長いと親しみを感ずる人の割合が高くなる。

年齢では、10代は感じている人の割合が高いが、20代は感じていないの割合が高くなり、年齢が高くなるほど減っていくという傾向がみられる。

鳥取市への愛着・親しみを感ずるか



鳥取市への愛着・親しみを感ずるか(R6年居住年数別)

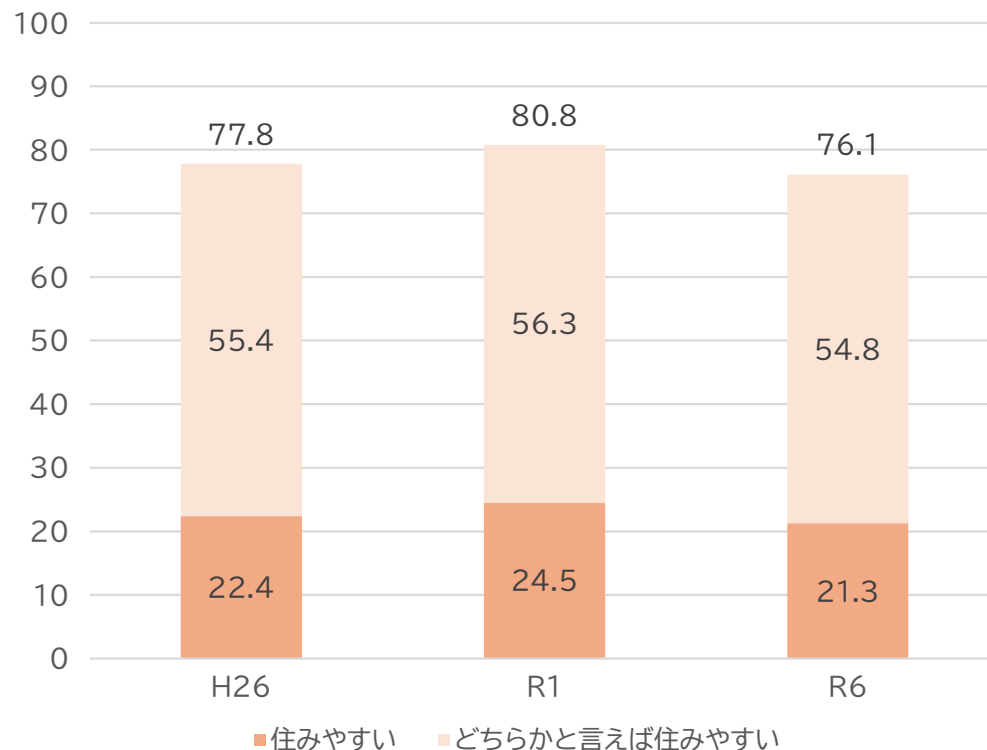


	感じている	感じていない	どちらともいえない
全体	55.9	9.0	31.2
男性	54.5	11.4	30.2
女性	58.3	6.9	31.1
10代	66.7	4.0	25.3
20代	55.0	16.5	26.6
30代	56.0	14.0	28.5
40代	51.4	11.6	33.7
50代	55.8	9.2	31.7
60代	54.3	6.8	33.6
70代以上	58.6	6.1	30.9

問:お住まいの地域の住みやすさについてどのようにお考えですか。

(2.－3)全体では10年間で大きく変わっていないが、若年世代によって“住みにくい”と回答する人の割合が高くなる。

住みやすい+どちらかと言えば住みやすいの合計値は、H26:77.8%、R1:80.8%、R6:76.1%とこの10年では最も低い大きな差は見られない。
属性別も特に“住みやすい”については、大きな差は見られないが、“住みにくい”に着目すると、10代・20代の値がやや高めになっている。

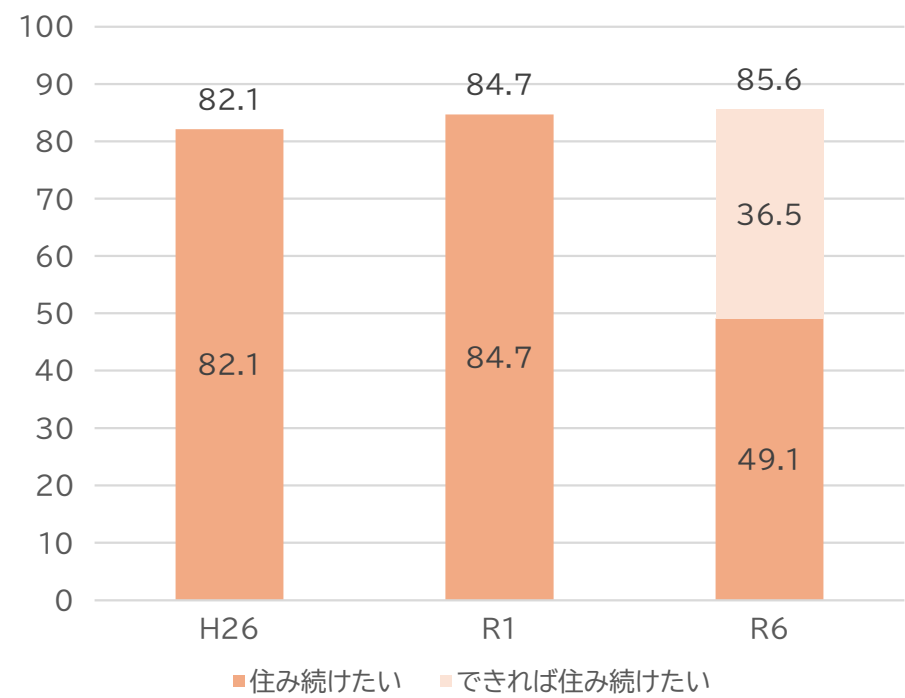


	とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらかといえば住みにくい	とても住みにくい	何ともいえない	無回答
全体	21.3	54.8	8.1	2.1	10.2	3.6
男性	22.1	54.2	8.6	2.6	8.9	3.6
女性	20.7	56.1	7.7	1.7	10.5	3.3
10代	24.0	48.0	13.3	1.3	10.7	2.7
20代	20.2	53.2	12.8	2.8	9.2	1.8
30代	21.2	58.5	7.3	3.1	8.3	1.6
40代	22.5	56.5	8.0	1.8	8.3	2.9
50代	23.1	55.1	8.9	2.3	7.3	3.3
60代	22.0	53.5	7.6	1.5	11.1	4.3
70代以上	18.7	54.5	6.3	2.0	13.7	4.7
鳥取市出身(県外居住経験はない)	25.2	50.9	7.2	1.6	11.2	3.9
鳥取市出身(県外居住経験はない)	20.2	56.3	9.5	2.6	8.4	2.9
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	15.5	55.5	5.5	2.7	17.3	3.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	17.1	60.2	8.4	2.2	9.2	3.0
小学生以上を子育てしている(n=225)	26.2	55.6	6.2	0.9	8.9	2.2
就学前児童を子育てしている(n=131)	22.1	60.3	5.3	2.3	7.6	2.3

問：鳥取市に今後も住み続けたいと思いますか。

(2-4) 今後の定住意向も増加傾向。一方で若者やIターン者の考え方には不安も。

前回と聞き方が異なるために単純な比較はできないが、住み続けたいという意向のある人は全体で85.6%である。特に10代・20代で「住み続けたい」と明確に言い切れる人の割合が低く、“市外で暮らしたい”と回答する人の割合が高くなる。(全体が11.0%であるのに対し、10代:41.3% 20代:25.7%)
また、県外から来たいわゆるIターン者も住み続けたいという意向が低い。



	住み続けたい	できれば住み続けたい	できれば市外で暮らしたい	市外で暮らしたい
全体	49.1	36.5	7.6	3.4
10代	17.3	41.3	24.0	17.3
20代	25.7	47.7	13.8	11.9
30代	44.6	42.5	8.3	3.1
40代	41.7	41.7	11.6	2.5
50代	46.2	38.9	5.9	4.0
60代	54.8	35.1	5.6	1.0
70代以上	64.0	26.8	3.4	1.4
鳥取市出身(県外居住経験はない)	57.2	32.0	5.6	1.8
鳥取市出身(県外居住経験がある)	49.4	37.4	6.6	2.4
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	49.1	32.7	12.7	3.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	32.2	45.8	11.7	8.1

問:若者が定住するために、どのようなことが効果的だと思いますか。(3つまで)

(2-5)“若者”とひとくくりにせず、その意向を細やかに確認することが重要

前回特に若い人の意見を中心に確認すると、若者と括るのではなく、性・年齢別や、どの年齢の子どもを育てているか、という軸で細かく見ていくことが必要だということが分かった。○は全体より10ポイント以上高いのもの

	全体	就職・転職支援	起業支援	企業誘致	地域資源の活用	農林水産物の生産振興	住宅購入・家賃の支援	道路などの基盤整備	公共交通機関の充実	教育環境の充実	子育て支援の充実	中心市街地の活性化などまちの賑わいづくり	医療・福祉の充実	防犯・防災など安全安心の確保	自然環境の保全	市民活動の充実	観光・交流の充実	文化・芸術の振興	若者の出会い(婚活)支援	市の知名度向上(シティセールス)	中山間地域(田舎)暮らしの確保	娯楽施設や商業施設の立地	その他	無回答
全体	100	62.8	9.6	29.9	2.6	3.6	20.4	5.9	15.1	9.3	35.6	10.7	17.8	5.0	2.9	0.8	3.1	1.7	10	3.2	5.6	19.2	1.5	4.3
男性-10代	100	63.9	13.9	13.9	2.8	8.3	22.2	8.3	22.2	13.9	16.7	25.0	8.3	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	36.1	0.0	8.3
男性-20代	100	45.0	7.5	20.0	0.0	5.0	27.5	7.5	25.0	10.0	17.5	15.0	7.5	2.5	2.5	0.0	7.5	0.0	15.0	2.5	7.5	37.5	2.5	2.5
男性-30代	100	62.7	12.0	34.9	1.2	6.0	31.3	6.0	9.6	7.2	47.0	10.8	12.0	1.2	0.0	0.0	6.0	0.0	8.4	2.4	1.2	26.5	1.2	1.2
男性-就学前児童を子育てしている	100	60.3	12.1	41.4	1.7	0.0	15.5	3.4	6.9	12.1	53.4	6.9	8.6	1.7	1.7	0.0	5.2	1.7	8.6	5.2	6.9	31.0	1.7	1.7
男性-小学生以上を子育てしている	100	57.5	14.9	42.5	2.3	6.9	23.0	9.2	9.2	14.9	39.1	9.2	8.0	3.4	2.3	0.0	5.7	0.0	9.2	3.4	4.6	24.1	3.4	1.1
女性-10代	100	50.0	7.9	18.4	0.0	0.0	21.1	0.0	28.9	7.9	31.6	18.4	13.2	7.9	2.6	0.0	10.5	0.0	5.3	5.3	0.0	28.9	2.6	2.6
女性-20代	100	57.8	4.7	18.8	0.0	0.0	32.8	1.6	21.9	4.7	39.1	7.8	14.1	1.6	1.6	0.0	1.6	0.0	1.6	1.6	3.1	48.4	0.0	6.3
女性-30代	100	64.1	11.7	12.6	1.9	1.9	34.0	4.9	13.6	6.8	54.4	10.7	14.6	1.9	1.9	0.0	2.9	1.9	2.9	2.9	1.9	30.1	1.9	4.9
女性-就学前児童を子育てしている	100	57.7	8.5	12.7	2.8	1.4	18.3	7.0	11.3	12.7	62.0	12.7	18.3	2.8	2.8	0.0	2.8	0.0	4.2	0.0	0.0	26.8	4.2	8.5
女性-小学生以上を子育てしている	100	75.2	13.5	22.6	4.5	2.3	24.1	6.8	17.3	18.0	36.8	12.0	10.5	3.0	1.5	0.0	2.3	1.5	3.8	2.3	2.3	23.3	1.5	0.8

3.

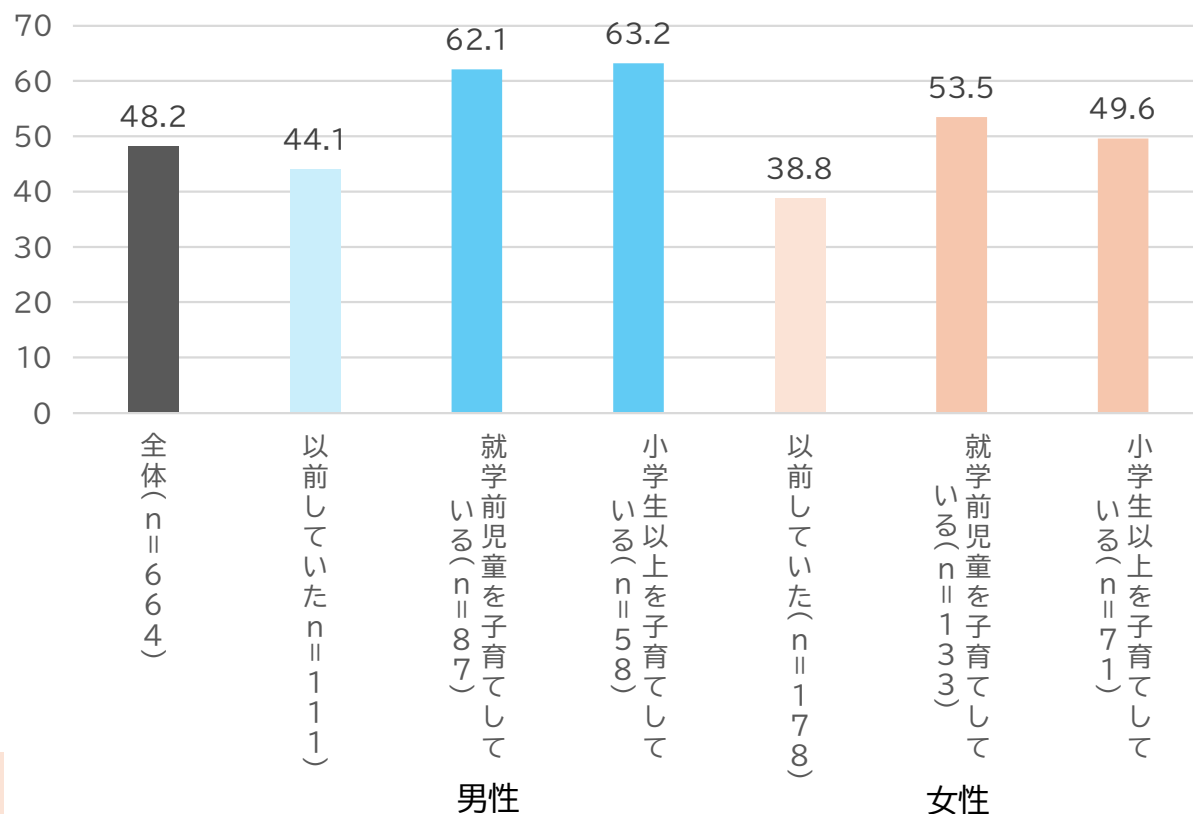
現子育て世代は、子育て施策に一定の評価をしているが、“子育て”を一括りにせず、細かく施策を分析することが必要。

問：鳥取市は、子育てしやすい環境だと思いますか。(しやすい／しやすかった の回答)

(3.-1)子育ての環境は現役男性世代の評価が高い。

子育てのしやすさについては、特に「男性」が、子育てしやすいと回答している。逆に「以前していた」という回答者(子育てが終わった人)は、子育てがしやすいという回答が全体より低い。

このことから、鳥取市の子育ての環境は、かつての子育て層の時代に比べて改善しているという様子が窺われる。



問：困ったときに助けてくれる人がいますか。

(3.-2)移住者を中心に、助けてくれる人がいないと回答。

鳥取出身ではない人は助けてくれる人が居なかったと回答する人が約5人に1人いることがわかった。

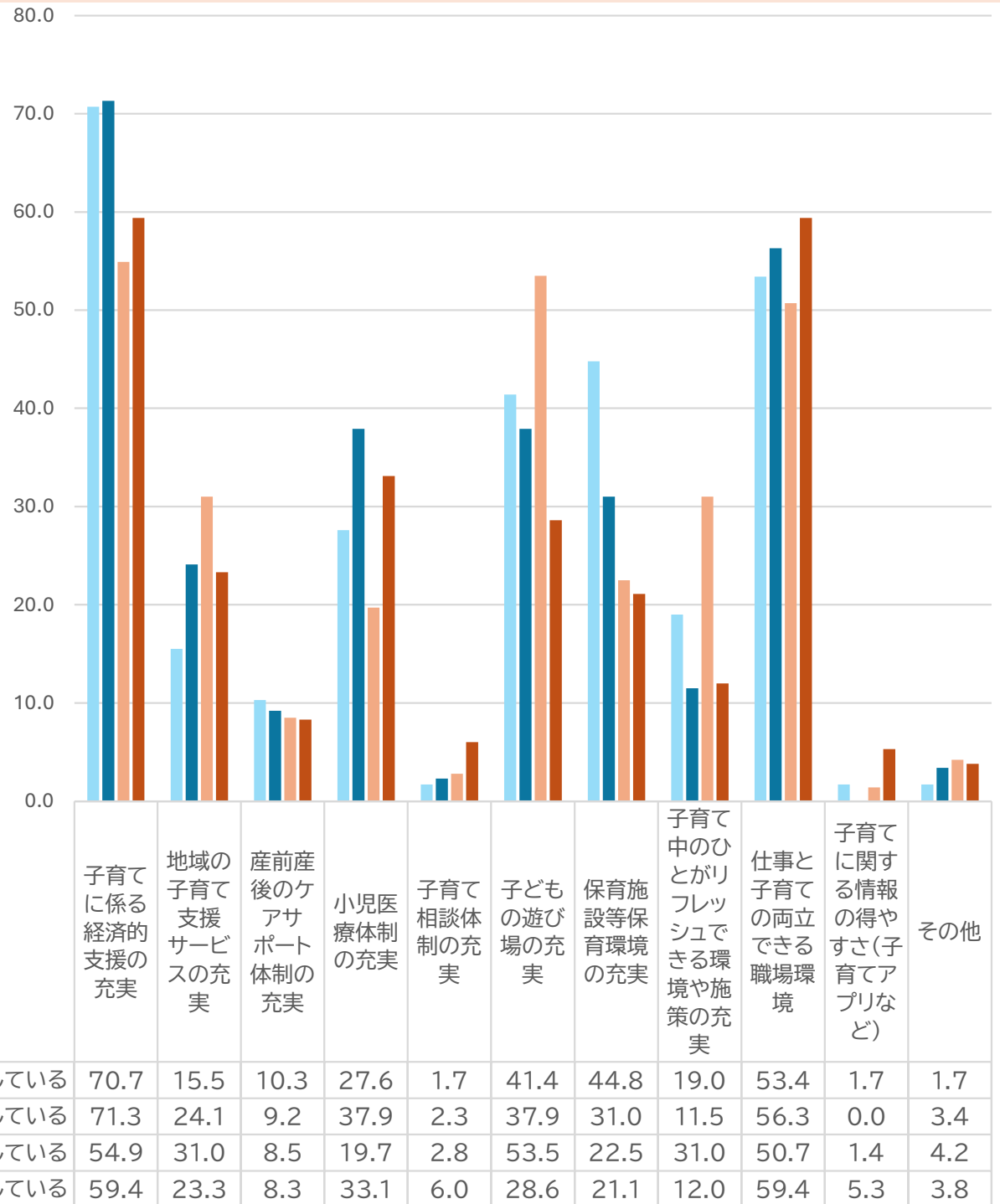
	いる(いた)	いない(いなかった)	無回答
全体	79.8	8.9	11.3
鳥取市出身(県外居住経験はない)	83.4	5.0	11.6
鳥取市出身(県外居住経験がある)	84.1	5.6	10.3
鳥取市出身ではない(県外居住経験はない)	81.3	4.2	14.6
鳥取市出身ではない(県外居住経験がある)	70.9	18.9	10.3

問:子育てしやすい環境にするには、何が必要だと思いますか。(3つまで)

(3.－3)「子育て」と一言でまとめるのではなく、父親・母親の役割や何歳の子どもを育てているかによって随分と違うことが分かった。

主な回答の高い項目と属性

- ▶ 経済的支援は父親。
- ▶ 子育て支援や子供の遊び場・リフレッシュできる環境は、就学前の子育て中の母親。
- ▶ 小児医療体制は就学後の父親・母親。
- ▶ 相談体制や仕事と子育ての両立環境は就学後の母親。



4.

コロナ禍を経て、地域社会との関わりが薄くなっているが、まちのために何か行動したい人も半数程度いる。

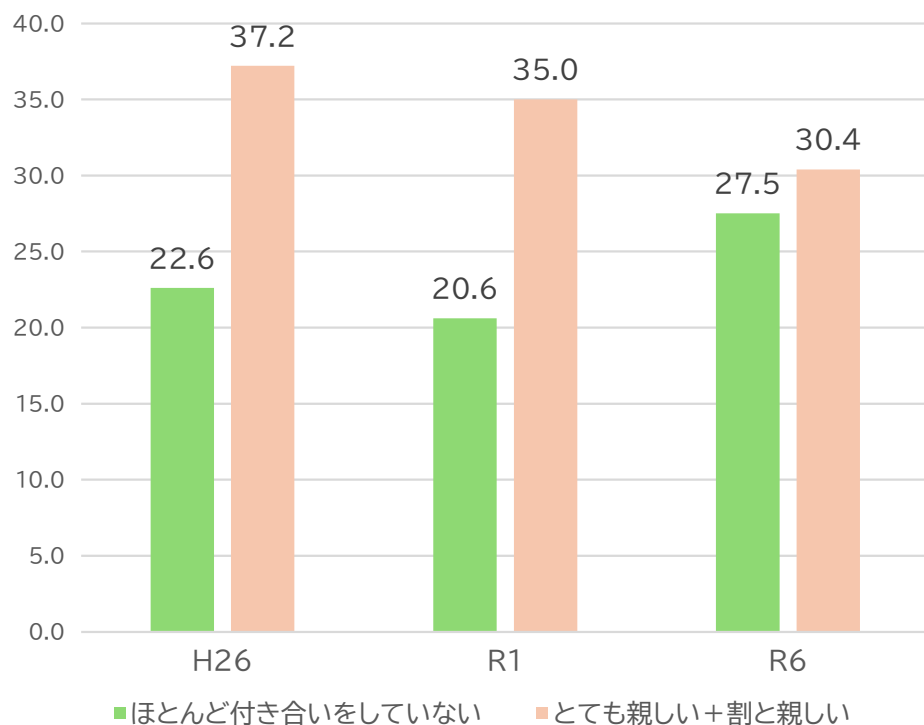
問: ご近所づきあいは何の程度ですか。

(4-1) 近所づきあいで親しさが失われつつある。またほとんど付き合いをしていない人も増えている。年齢ではなく生年(世代)による影響が大きいと思われる。

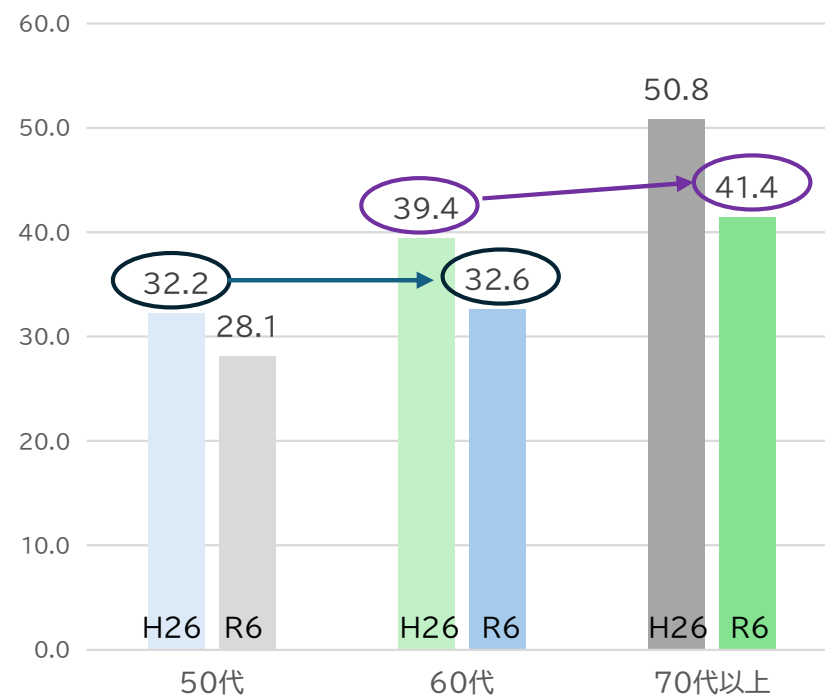
「ほとんど付き合いをしていない」という回答が10年前・5年前と比べて増えている。逆に「とても親しい+割と親しい」の合計値は減っている。

10年前と年齢別で比べると、同じ世代(例: H26年調査時の50歳代は、10年後のR6年は60歳代)の回答は大きく変わらない。つまり年齢を重ねると近所づきあいが増すというのではなく、世代による要因が大きいことが読み取れる。

近所づきあいの程度



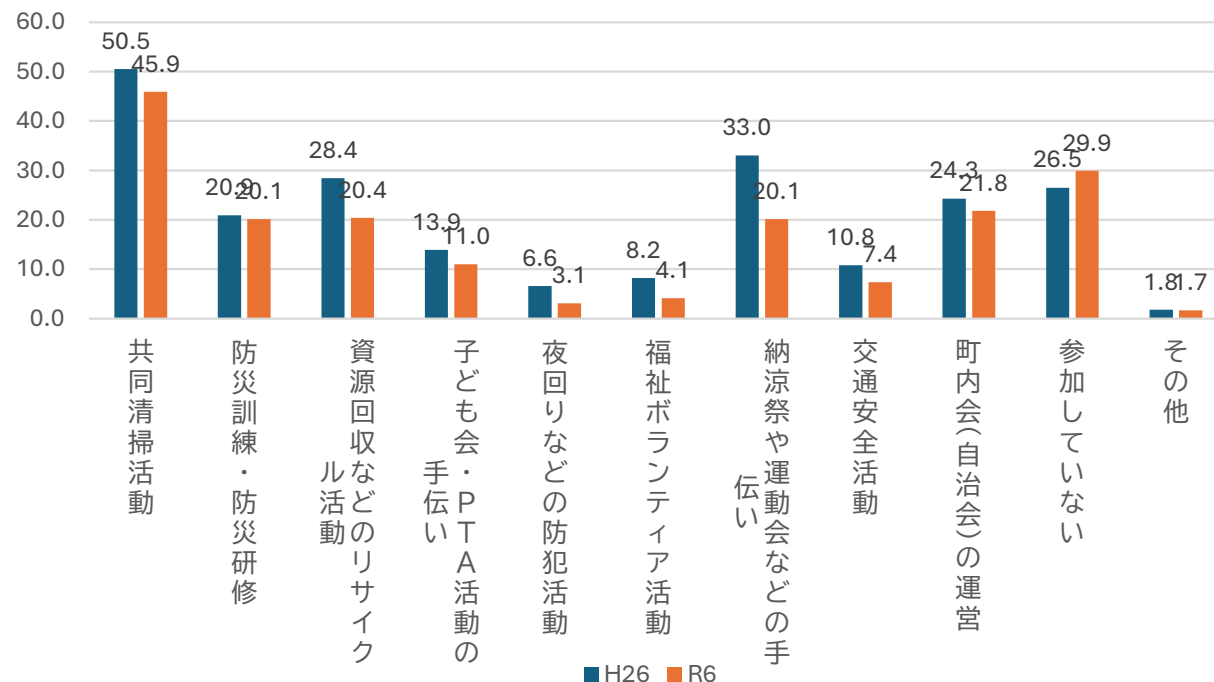
とても親しい+割と親しいの割合



問:過去1年にあなたが参加した地域の活動がありますか。(複数回答)

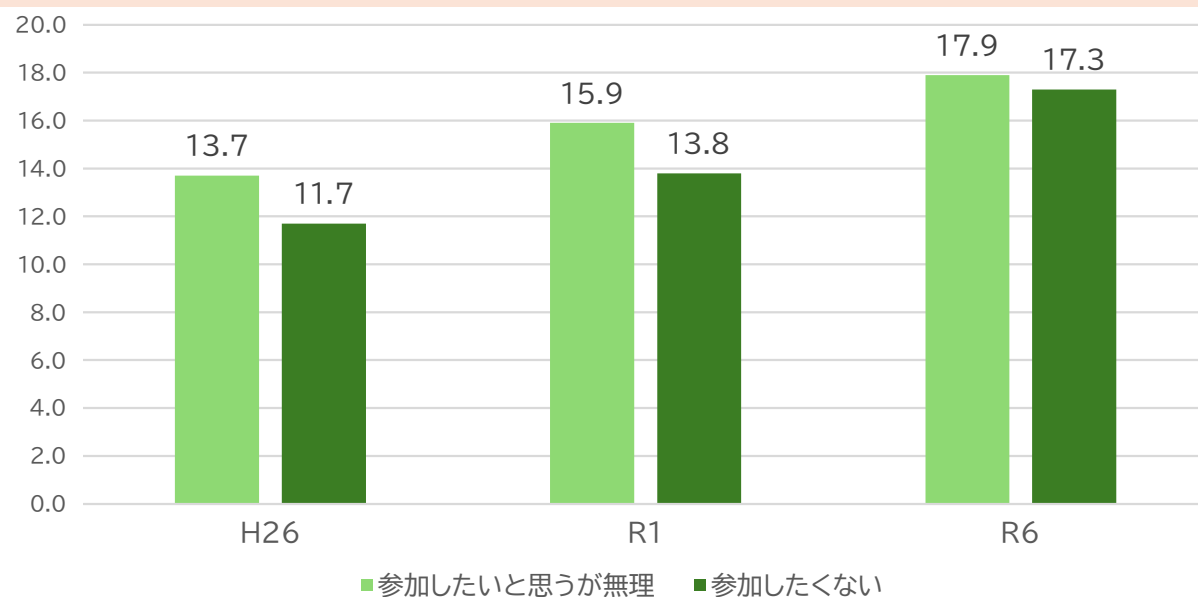
(4-2)コロナによる地域活動の自粛の影響があるのではないかな。

10年前と比べると、資源回収などのリサイクル活動や、納涼祭や運動会などの手伝いのスコアが軒並み下がっているほか、全体的にみてもスコアが低下している。コロナによる地域活動ができなかった時期を経ていることが影響にあるのではないかな。



問:今後、地域の活動へ参加したいと思いますか。

(4-3)参加したくないとはっきり言う人の割合が高くなっている。この10年で一貫して伸びており、全体の3分の一強が参加の難しさを表明している。



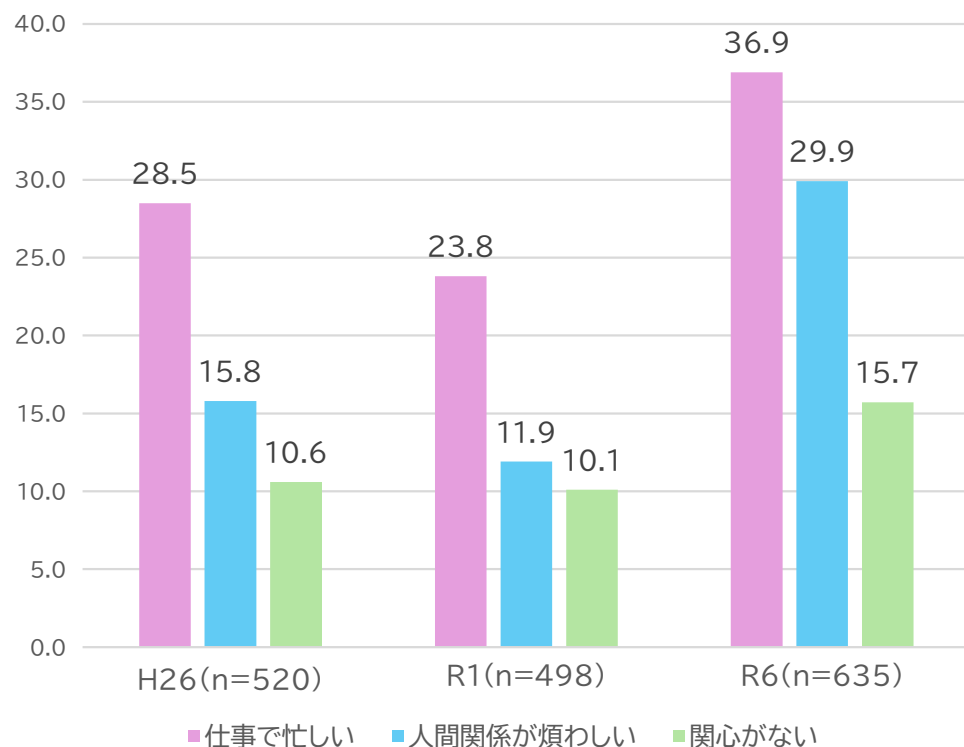
問:今後、地域の活動へ参加したいと思いますか。

(4-4)地域活動に参加しない理由で「人間関係が煩わしい」「関心がない」などと回答する人が増えている。

これも、コロナによる人との関わりの変化から来ていると考えられる。

ただし若い人だけではないことに注目する必要がある。
(人間関係が煩わしいは40～60代が全体平均より高め)

地域活動への参加を妨げる原因(上位)



	仕事 が忙し くて参 加する 時間が ない	家事・ 育児・ 介護な どで時 間がな い	人間 関係が わずら わしい	地域に 一緒に 参加す る仲間 がいな い	自分 が参加 するメ リット や必然 性を感 じない	身近に どんな 活動が あるの か情報 がない	余暇の 時間を 割いて まで参 加しよ うと思 わない	興味・ 関心 がない	その他	無回 答
全体	36.9	14.6	29.9	11.8	14.5	7.7	20.9	15.7	12.9	1.3
10代	20.0	8.0	20.0	16.0	16.0	12.0	16.0	36.0	8.0	0.0
20代	33.3	8.9	24.4	20.0	24.4	15.6	17.8	26.7	4.4	0.0
30代	58.2	25.3	22.8	8.9	11.4	12.7	21.5	15.2	2.5	1.3
40代	44.3	18.0	40.2	9.0	17.2	2.5	32.8	9.8	6.6	1.6
50代	54.0	11.5	33.6	12.4	11.5	6.2	22.1	12.4	6.2	0.9
60代	36.5	13.0	31.3	13.0	12.2	7.8	14.8	13.9	14.8	0.0
70代以上	8.2	11.9	24.6	11.2	14.2	7.5	14.9	18.7	32.8	3.0

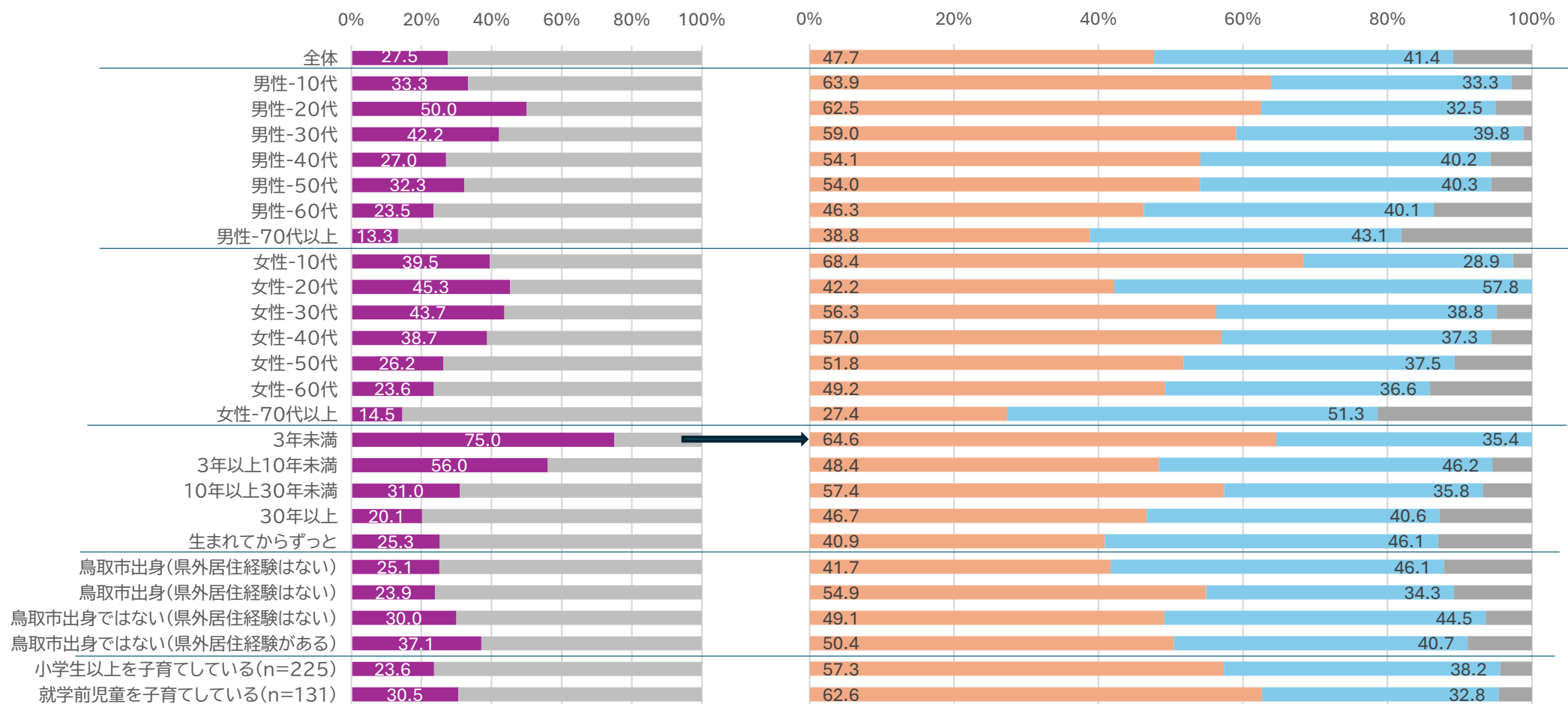
(4-5)より良いまちにするための行動は、全体では「思う」の方が「思わない」より割合が高い。

注目すべき点は、在住3年未満の方は、近所づきあいは「ほとんど付き合いをしていない」が75.0%という回答であるが、「より良いまちにするために、何か行動したい」も64.6%と全体より高い。

問:ご近所づきあいはどの程度ですか。

問:より良いまちにするために、何か行動したいと思いますか

ご近所づきあいはどの程度ですかの問いに
「ほとんど付き合いをしていない」と回答した
人の割合



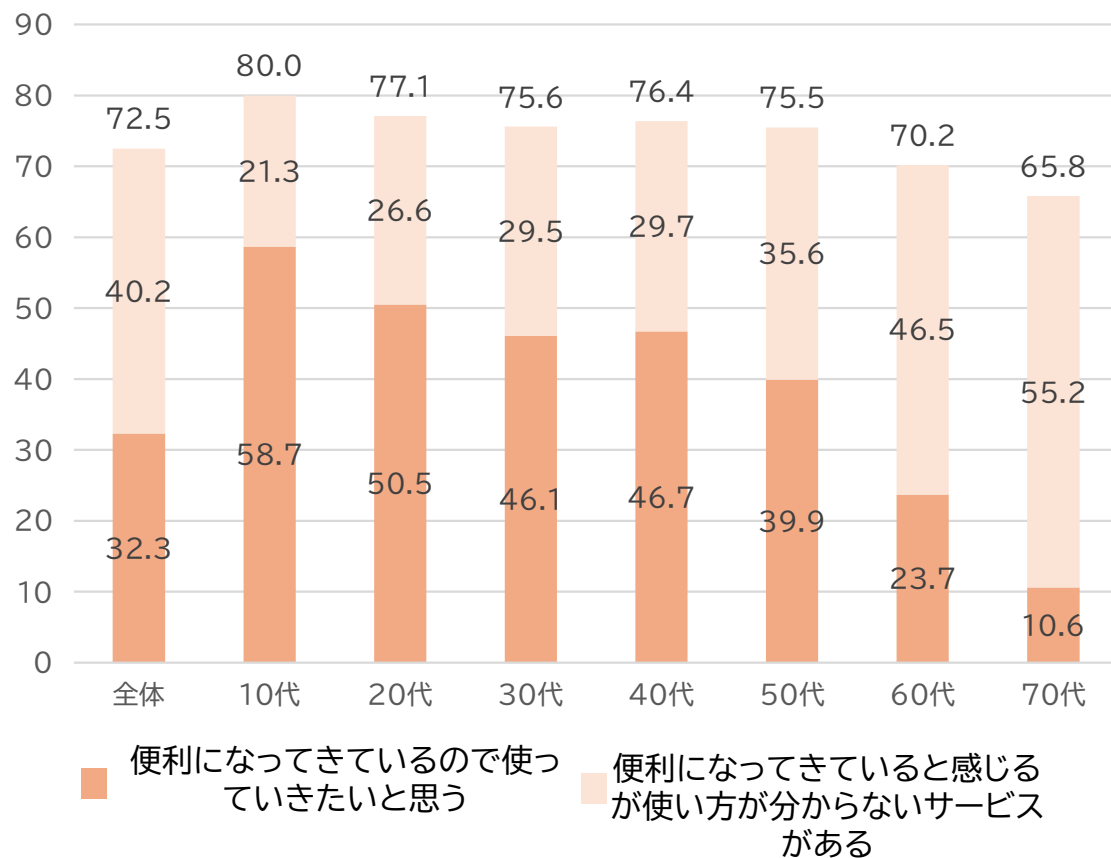
5.

デジタルサービスは浸透してきている。年代に応じたメディア利用や動画等を活用した説明、アプリ共通化等の必要も。

(5-1) デジタル化によって便利と感じるのは全体では7割強。

70代であっても「便利と感じる」と回答したのは65.8%。支障になっている主な回答について、高齢者の方がやや高めではあるが、若年層でも使い勝手に課題を感じてる人はいる。

問：あなたは行政サービスのデジタル化に対してどう感じますか。



問：あなたにとってデジタルによる行政サービス利用の支障になっているものは何ですか(主な回答)

	デジタルサービスの利用申請が面倒である	アプリなどのサービスが複数あり分かりにくい
全体	34.9	30.8
10代	24.0	18.7
20代	29.4	25.7
30代	32.1	26.9
40代	32.2	31.9
50代	33.3	26.1
60代	41.9	38.6
70代以上	35.6	31.8

問:デジタルを活用したサービスをどのような手法で学びたいですか。

(5-2)動画による取得を学びたい人が最も多い。

対面が多いのは60代以上。動画は30・40代を中心に高くなっている。マニュアルはどの年代もほぼ変わらない。

	対面による講習 (スマートフォン 教室など)	くわしいマニユアル(文書)での習得	動画による習得
全体	21.7	23.6	35.2
男性	21.7	24.5	37.3
女性	22.0	23.1	33.0
10代	16.0	14.7	32.0
20代	6.4	20.2	37.6
30代	8.8	21.2	41.5
40代	9.8	23.9	41.3
50代	19.8	20.8	39.6
60代	34.1	27.5	39.6
70代以上	30.0	24.5	21.6

問:あなたは次にあげるインターネットサービスを活用していますか。
【あてはまる項目全てにチェック】

(5-3)LINEの利用率は圧倒的。各メディアごとに主な利用年齢層に差がある。

LINEとYoutubeがメインの情報インフラになりつつある。その他のSNSは年代によって利用率に差があるため、ターゲットに応じた利用が求められる。

	LINE	Facebook	Instagram	Youtube	X	TikTok
全体	78.9	14.6	32.4	56.8	23.4	15.1
10代	94.7	9.3	77.3	93.3	60.0	57.3
20代	95.4	11.0	77.1	87.2	71.6	41.3
30代	92.2	26.4	57.5	80.8	48.7	24.9
40代	94.2	26.1	50.7	81.2	30.8	18.1
50代	85.8	19.5	38.9	64.7	24.4	14.5
60代	80.1	10.1	16.4	48.7	9.3	8.3
70代以上	51.1	5.0	1.8	19.4	2.0	1.8
小学生以上子育て	94.7	23.1	50.7	76.9	26.2	20.0
就学前児童子育て	97.7	34.4	67.2	86.3	41.2	29.0

地域活動に対する重要度が下がってきている。重点改善分野など施策に継続して取り組んでいく必要がある。

(6.-1)平均で下回っているのが、公民館活動、祭りなどの地域の行事、自治会やサークルなどの地域の活動。

満足度と同様の計算式で行った。

1位が買物の便利さと適切な医療サービスが同じ得点でトップ。次いで、災害時の防災・避難体制、給与・勤務時間などの労働条件、雇用の場の確保、物価、などが続く。

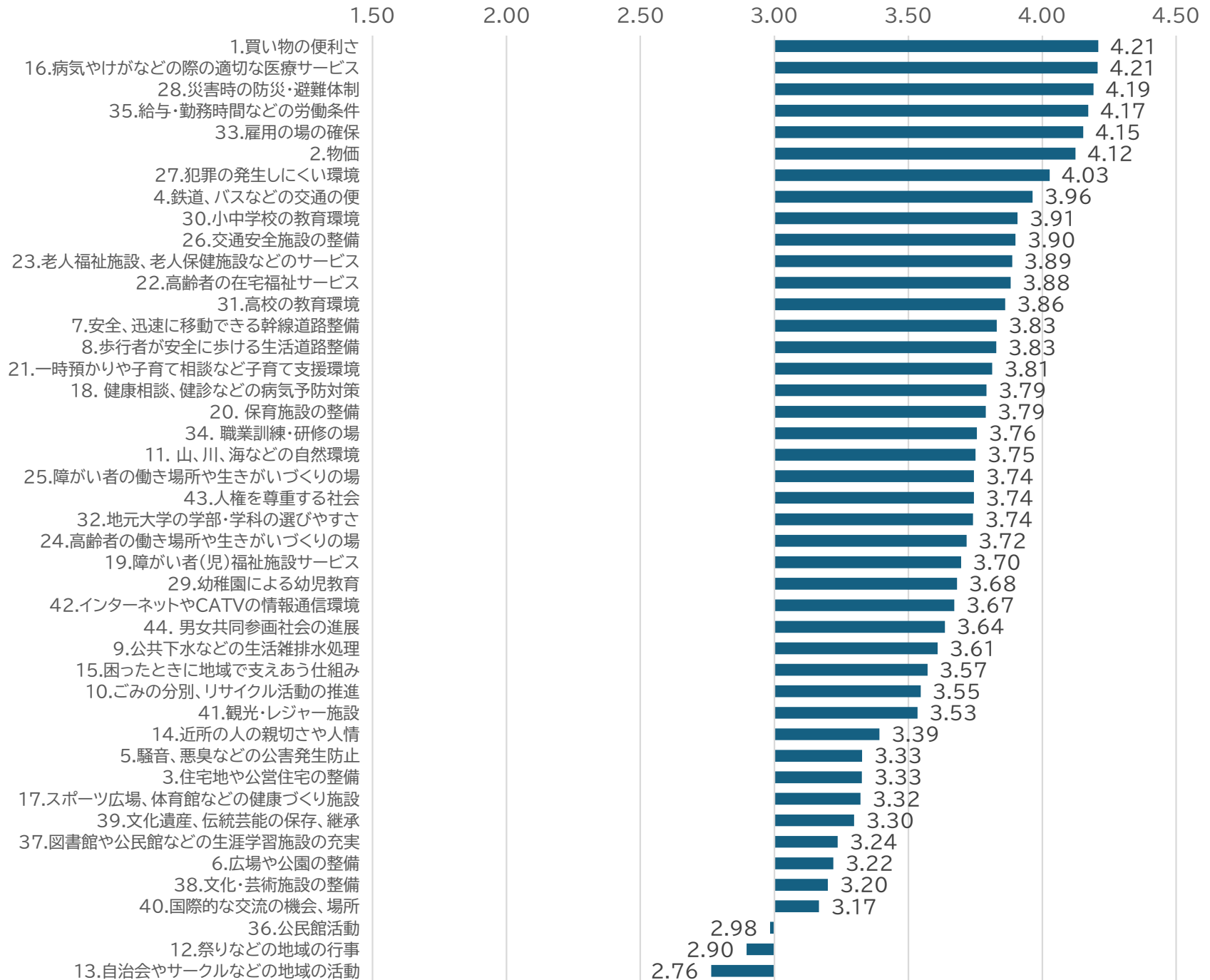
5段階評価の3を平均で下回っているのが、公民館活動、祭りなどの地域の行事、自治会やサークルなどの地域の活動である。

(1.-6)満足度と重要度の関係を図にした散布図を作成した。4つのマトリクスに分け、「重点改善分野(右上)」「改善分野(右下)」「重点維持分野(左上)」「維持分野(左下)」の4分野に分けている。(次々ページ参照)

「重点改善分野(右上)」は次の通り

- 4.鉄道、バスなどの交通の便
- 35.給与・勤務時間などの労働条件
- 2.物価
- 33.雇用の場の確保
- 32.地元大学の学部・学科の選びやすさ
- 34.職業訓練・研修の場
- 24.高齢者の働き場所や生きがいづくりの場
- 25.障がい者の働き場所や生きがいづくりの場
- 8.歩行者が安全に歩ける生活道路整備
- 7.安全、迅速に移動できる幹線道路整備
- 22.高齢者の在宅福祉サービス
- 23.老人福祉施設、老人保健施設などのサービス
- 19.障がい者(児)福祉施設サービス
- 26.交通安全施設の整備
- 28.災害時の防災・避難体制

問:これからのまちづくりに、次にあげる項目はどの程度重要だと思いますか。



重点維持分野

未来への重要度軸

重点改善分野

